



# 猛暑の夏の管理のポイント！

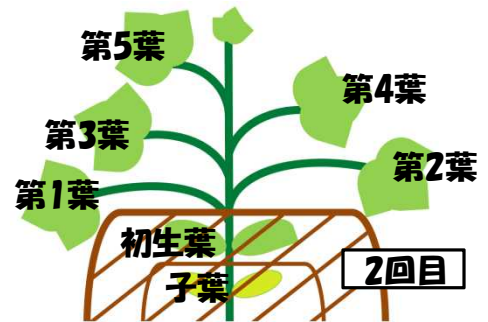
梅雨明け後、雨の少ない猛暑が続いています。長期予報では、今後も暑い日が続くと予想されるので、適切な管理で多収を目指しましょう。

## 二回目の中耕培土は適期に実施！

中耕培土により、根の通気性が良くなり根粒菌が活発化し生育を良くします。さらに、雑草対策になるので必ず行いましょう。なお、干ばつが心配される年は、いつもより軽めに行ってください。特に適期を過ぎた中耕培土は断根によるダメージの方が大きいので避けましょう。

**時期：第5葉が展開する時期**  
(遅くても花が咲くまでに終了)  
**程度：初生葉が埋まる深さ**

### ★第2回目中耕培土のイメージ



## 高温年はハスモンヨトウに要注意！

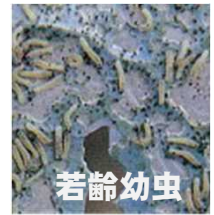
高温少雨年に多発する害虫なので、今年は特に注意が必要です。8月の発生を放置すると、9月以降次世代の幼虫が大きな被害をもたらします。防除効果が最も高いのは、白変葉の葉裏にいる若齢幼虫です。圃場を巡回し、白変葉が目立ち始めたら防除しましょう。

### ・使用薬剤(例)

ハスモンヨトウ剤	10a当たり散布量
プレバソフフロアブル5	4,000倍 100～300L
ノーモルト乳剤	2,000倍 100～300L
トルネードフロアブル	2,000倍 100～300L



白変葉



若齢幼虫

中齢幼虫になると圃場内に分散し、薬剤の効果が落ちるので早めの防除が効果的です。

## 干ばつ時の畦間かん水について！

開花期以降干ばつにあうと、落花・落莢や子実が肥大せず減収・品質低下をまねきます。そのため、かん水ができる圃場では干ばつが終わるまで畦間かん水を行うことが上策です。

### 注意点

生育前半に畦間かん水を行うと根が伸びず、乾燥に弱い体質になります。そのため、開花期まではかん水を行わず、開花期以降に実施しましょう。

### ポイント

- ① 開始の目安は、晴天が1週間続き、土が白く乾き、圃場全体で葉の裏面が目立つ時。
  - ② 朝夕の涼しい時に行いましょう。高温の日中は、根痛みします。
  - ③ 程度の目安は、株元が湿る程度。短時間でおこない、うね間に水が行き渡ったら止水します。
- ※ 一度行くと干ばつが終わるまで継続して行う必要があります。
- ※ 本暗きよ設置圃場は、暗きよ栓を閉めることで乾燥しにくくなります。なお、その後雨が降り過湿状態になった場合、速やかに暗きよ栓を開きましょう。